火之元之掟

一火之元麁末ニ致し候もの早速地立店たて可申付事

一風烈之節ハ町々ニ而御用之外堅他出いたさす火之元而已相守り屋根上庇したミ等江水をうち有合之桶其外江水をくミため置申へき事

但屋根上之防之ためはしこ并水籠水鉄砲等用意致し置可申候

一平日茂かたとハいふに不及二階物置等茂惣而目遠き場所ハたへす見廻り夜中ハ寝ふし候節家内を改消炭其外をとくとミととけ可申事

一湯屋をはしめ出ふ火を焚候渡世ハ猶更建具屋つき米やハかんなくすわら灰等并わら商売之もの其品別而こころ付可申事

一ふう挑灯ととなへ候品より度々致出火候儀有之候間用ひ候度こと入念しめし可申事

一普請小屋ハ昼夜無油断見廻其外河岸地物置等ハ別而心付可申事

一手あやまち致し火もへ立候ハハ畳にておふひ消可申尤声をたて近所へしらせ可申事

一出火有之候ハハ屋根上其外飛火之防第一ニ可致已来遠方より之出火にて飛火いたしそれより焼つのり候ハハ火元と同罪たるへき事

一普請小屋ハ昼夜無油断見廻其外河岸地物置等ハ別而心付
可申事
一手あやまち致し火もへ立候ハハ畳にておふひ消可申尤声を
たて近所へしらせ可申事
一出火有之候ハハ屋根上其外飛火之防第一ニ可致已来遠方より
之出火にて飛火いたしそれより焼つのり候ハハ火元と同罪
たるへき事
一出火致し屋根上へもへぬけ又ハ飛火にてもへ立候節近所へ
ものとも早速うち遣し候ハハ其町内隣町より其ものともへ
格別之褒美可遣事
但右出銀手当ハ地主とも并表店之ものにハ申合積置可
申尤次第ニ寄月番之御番所江訴出可申時宜ニ寄褒美為
取可申事

ものとも早速うち遣し候ハハ其町内隣町より其ものともへ
格別之褒美可遣事
但右出銀手当ハ地主とも并表店之ものにハ申合積置可
申尤次第ニ寄月番之御番所江訴出可申時宜ニ寄褒美為
取可申事
一火之番行事其町内を度々見廻り可申事
一風烈之節ハ名主茂支配内見廻り火之元おこたらさるよふ
可申付事
一平日茂水溜桶用意いたし水かめかわかさる様たへすくミ入
置可申事
一名主共組合之内弐三人ツツ申合当々支配内火之元等互ニ心付
軒近き所江火所をこしらへ其外火之元不用心ニ相見候
所ハ名主共見廻り為直可申事
右之条々急度可相守相背候ハハ罪科
たるへきもの也
寅二月　　名主